

通告1番目、8番、田中宏幸議員、一問一答方式で質問をお願いします。

田中宏幸議員。

○田中議員 皆さん、おはようございます。

8番、田中宏幸です。議長の許可を得ましたので、通告に従い、一問一答方式で一般質問させていただきます。

きょうは、SDGsについて。

当市の考えは。そして、市民への理解を広げるには。そして3つ目に、小中学校への持続可能な社会づくりとしての取り組みは、ということです。

2番目に、マイナンバーカードについて。

1つ目、マイナンバーカードの交付率・推進について。そして2番目に、マイナンバーポイントについて、お尋ねさせていただきます。

まず最初に、SDGsについて。SDGsというのは、SがSustainable、DがDevelopment、Gsといいます。これはGoalsの意味で、持続可能な開発目標ということです。

これは2015年9月に国連の加盟する193カ国全ての国の全会一致をもって採択された持続可能な開発のための2030アジェンダに記載された世界共通の目標です。

地球上の誰一人として取り残さないことを理念とし、持続可能なよりよい世界を実現するため、人類、地球及びそれらの繁栄のために設定された行動計画であり、17のゴールと169のターゲットから構成されています。

これは先進国を含む全ての国と人のためのものです。17の目標は互いに関連しており、同時に解決を目指しています。国、自治体、企業、市民社会、個人など、あらゆるアクターの力と参加を必要としています。

全ての国で決めたことですので、当然、日本も取り組んでいかなければなりません。日本政府は、2016年、安倍総理を本部長として、全ての国務大臣がメンバーとなるSDGs推進本部を設置し、政府が先頭に立ち、取り組みを始めました。安倍首相は、日本はこれまで持続可能な経済社会づくりのため、国際社会のモデルとなるようなすぐれた実績を積み重ねてきています。関係閣僚においては、今後も本実施指針のもと、緊密に連携し、政府一丸で取り組むようお願いいたしますと言っています。

地方自治体や民間企業で政策や事業に取り入れる動きが活発化しています。SDGsは、循環型社会の実現を目指し、あらゆる人が活躍できる場をつくり、そして環境や社会に配慮したビジネスを推進していく。そうした行動が持続的に発展して

いくための地方創生に役立っているのではないのでしょうか。

市ではSDGsについて、どのようなお考えなのか、お聞かせください。

次に、このSDGsの取り組みは、市民の協力が不可欠であります。しかしながら、認知度が、朝日新聞の調べで、8月の時点で27%とかなり低く、余り知らされていません。もっと皆さんに理解を広げる活動が必要と考えますが、いかがでしょうか。

3つ目に、小中学生への取り組みですが、興味のある生徒だけがSDGsを知るのではなく、小中学校の教育環境の中で、この考えや理念が子供たちに理解できるように取り組んでいければ、持続可能な社会づくりにつながるのではないかと思います。どのようなお考えなのか、お聞きします。

○田畑議長 ただいまの1番目の質問に対する市当局の答弁を求めます。

市長。

○中芝市長 おはようございます。

田中議員のご質問についてお答えをいたします。

市では、第2次岩出市長期総合計画に基づき、市の将来像である「活力あふれるまち ふれあいのまち」の実現に向け取り組んでいるところであり、本市においても持続可能な社会を目指す取り組みを市の施策や企業の事業に取り入れるSDGsの理念は、大変重要なものであると認識しております。

SDGsの17のグローバル目標には、貧困や餓死、健康や教育、安全な水、働きがいや経済成長、住み続けるまちづくり、環境課題への取り組み、平和への取り組みなどが掲げられております。市といたしましては、SDGsの達成に向けた取り組みを着実に推進することにより、地域の活性化につながるものと考えておりますので、今後もこの理念を意識しながら、長期総合計画など、各種計画の目標値の検証、分析を行い、実効性のある計画の策定に努めるとともに、先進地の情報を取り入れながら、各種施策の取り組みを進めてまいりたいと考えております。

なお、詳細については担当部長のほうから答弁させます。

○田畑議長 市長公室長。

○久嶋市長公室長 おはようございます。

SDGsについての1点目、市の考えはについてのご質問にお答えいたします。

政府が策定いたしました持続可能な開発目標実施指針には、各自治体の各種計画等については、SDGsの理念を最大限に反映させることが推奨されております。

市といたしましては、第2次岩出市長期総合計画における目標施策である市の風

格のあるまち、生活基盤の安定したまち、環境を守るまち、心豊かな人が育つまち、人権が尊重されるまち、いきいきと健康に暮らせるまちのまちづくりの理念に合致しており、その理念は市の施策に取り入れているものと認識しております。

先ほど市長が答弁いたしましたとおり、第2次岩出市長期総合計画等、各種計画の目標値の検証・分析を行いながら、第3次岩出市長期総合計画等の策定に努めてまいりたいと考えております。

次に2点目、市民へ理解を広げるにはにつきましては、最近ではSDGsのロゴバッジをつける人もふえてきているように思われますが、まだまだなじみのない言葉であります。SDGsの実施においては、自治体を初め、企業、大学、市民等、多様な主体との協働による取り組みの推進が必要であると考えておりますので、今後、SDGsの達成に向けた取り組みを推進していくためにも、職員が意識して取り組む必要があります。そのためにもSDGsの推進に向けては、行政分野が広範なため、市職員向け研修会の開催等を予定しております。

また、事業者や市民に対しても認知度が低い現状にあることから、認知度向上に向けた取り組みとして、広報紙等による情報発信に努めるとともに、市民一人一人の理解を広げ、認識を共有するための啓発が必要であると考えておりますので、今後、研究・検討してまいりたいと考えております。

○田畑議長 教育長。

○塩崎教育長 田中議員のSDGsへの取り組みについての3点目にお答えいたします。

教育分野については、SDGsの目標4に位置づけられておりますが、基本的には教育が全てのSDGsの基礎であり、全てのSDGsが教育に期待していると言われております。

SDGsの実現を目指すための教育のあり方を示すものとして、ESD、持続可能な開発のための教育が提唱されており、新学習指導要領全体において基盤となる理念として組み込まれています。新学習指導要領では、総則において、豊かな創造性を備え、持続可能な社会のづくり手となることが期待される児童生徒に、生きる力を育むことを目指すに当たっては、学校教育全体並びに各教科、道徳科、総合的な学習の時間及び特別活動等の指導を通して、どのような資質、能力の育成を目指すのかを明確にしながら、教育活動の充実を図るものとするとしております。このように、学習指導要領に基づき、学校教育を進めていくことがSDGsの目標達成に向けた取り組みであると理解しております。

ただ、議員ご指摘のとおり、教育現場においての認知度は高くありません。今後、世界共通の目標であり、2030年を生きる子供たちが持続可能な開発を促進するために必要な資質や能力を育成できるよう努めてまいります。

○田畑議長 再質問を許します。

田中議員。

○田中議員 今の答弁の中で、SDGsのロゴバッジをつけている人もふえてきていると言われておりましたが、私、きょう、つけている丸いカラフルなバッジがそうです。また、皆さんももしよかったら購入していただいて、つけていただいたらと思います。

SDGsは、市の長期総合計画に合致する点が多くあります。これに向けた取り組みを着実に推進していくということですが、SDGsは17の目標があり、幅広い分野にわたっての取り組みが必要となってきました。環境・衛生の問題について、最近、企業では危機感を持って動き始めています。

少し紹介させていただきますと、住宅機器メーカーのリクシルさんでは、安全なトイレを世界中にということで、トイレの微生物による社会衛生環境問題の開発を目指し、安価で高品質なトイレを途上国に提供しています。世界で、現在、約23億人の人々が安全で衛生的なトイレを使えていません。安全なトイレがないことによって周りの水が汚染され、その結果、約800人もの子供が毎日命を亡くしています。これはSDGsの安全な水とトイレを世界中にということで、17のゴールの6番目の目標です。

また、食品メーカーやスーパーなどの食品ロスが日本で年間2,800万トン廃棄されています。日本フードエコロジーセンターでは、その商品を回収して、独自開発システムにより発酵、事業化をして、畜産農家と提供することで食品の無駄をなくしています。これはつくる責任、使う責任、そして後始末の責任で、12番目の目標となっています。

また、瀬戸内海の女子高校地歴部では、きれいな海を残したいということで、瀬戸内海のプラスチックごみによる沿岸汚染に着目し、地元の漁師と共同で海ごみの回収、分析を実践しました。海ごみの起源地である内陸部や沿岸地域において啓発活動を行っていますが、部員の活動だけでは追いつかないので、海底ごみ問題については多くの人に知ってもらうことが大切であります。海から離れるほど海ごみに対する理解は進んでいないと言っています。この前もニュースで、昭和59年製のプラスチックごみが海底6,000メートルで発見されたと言っていました。これは海

の豊かさを守ろうということで、目標の14番目に位置しています。

このようにSDGsは、本当に世界中に幅広い分野で取り組んで、17のゴールを目指していると言っています。

数日前までCOP25が開催されていましたが、地球温暖化の問題は喫緊の課題であります。気候変動に具体的な対策を行っていかねばなりません。これは目標の13番目です。

また、海洋のマイクロプラスチックやプラスチックごみの問題、いろんな環境問題が世界中で取りざたされています。私たち一人一人が、こういった深刻な問題に対して意識を高く持って取り組んでいかねばなりません。

市として、このような環境問題に対してどのような取り組みを考えているのか、お聞かせください。

そして、小中学生への取り組みについてですが、子供たちがふだんの生活の中で、横断歩道の信号が青ならば渡る、歩行者は右側通行というような普通の法律のように、SDGsの考え、理念が当たり前の日常の常識になっていくように広まっていければいいのではないかと思います。

現在の学校教育で、SDGsの目標に合致している内容にはどのようなものがあるのか、お聞かせください。

○田畑議長 ただいまの再質問に対する市当局の答弁を求めます。

教育長。

○塩崎教育長 再質問にお答えします。

各小中学校においては、総合的な学習などの時間において、例えば、目標11、安全で災害に強いまちづくりでは、自然災害から人々を守る活動、目標12、持続可能な生産と消費では、これからの食料生産、目標5、ジェンダー平等の実践では、男女混合名簿の作成などを実施しています。

○田畑議長 生活福祉部長。

○前芝生活福祉部長 おはようございます。

田中議員の再質問にお答えします。

先ほど答弁のありましたとおり、岩出市長期総合計画に基づく、住んでよかったと思えるまちづくりを基本計画と定め、自然環境の保全、生活環境の向上、地球環境の保全を基本方針として、持続可能な開発目標の理念に合致した取り組みを行っております。

国においては、17の目標から8つの優先課題を掲げており、環境関連施策とし

ては循環型社会の構築や食品ロス削減などが具体的施策として掲げられております。国際的には、先日、スペインでC O P 25 が開催され、将来の地球温暖化の防止に向けた取り組みを議論しております。

また、海洋マイクロプラスチックやプラスチックごみ問題につきましても、日本はもちろんのこと、世界の人々が取り組むべき環境問題であります。

市としましても、このような環境問題を解決すべき課題と捉え、周知啓発に努めるだけではなく、市民、企業、行政が協働するクリーン缶トリー運動や、市内小学校4年生を対象にした環境出前講座などに取り組んでおり、また、リサイクル工房による3R、Reduce、Reuse、Recycleの推進にも取り組んでおります。

引き続き今後の国の動向を注視するとともに、岩出市長期総合計画に基づき取り組んでまいりたいと考えております。

○田畑議長 再々質問を許します。

(なし)

○田畑議長 これで、田中宏幸議員の1番目の質問を終わります。

引き続きまして、2番目の質問をお願いします。

田中議員。

○田中議員 続いて、2番目の質問です。

マイナンバーカードについてお尋ねいたします。

ことしの9月3日に政府はデジタルガバメント閣僚会議を開いて、マイナンバーカードの普及に向けた具体策を示しました。10月の消費税増税に伴い、2020年度に導入するポイント制度は、自治体ごとではなく、全国共通の仕組みとして、利便性を高めていくということで、地方公務員は今年度中にカード取得を義務化すると言っています。

マイナンバー制度は、給付金などを不正に受給できないよう、公平で公正な社会の実現や面倒な行政の手続を簡単にする住民の利便性の向上、そして、手続が正確にできる行政の効率化を目的として導入されました。平成27年10月に全住民に共通番号、マイナンバーカードの通知書が順次送付されましたが、この通知書は、あくまでマイナンバーを本人に通知するための文書であり、本人の申請手続によってマイナンバーの確認と本人確認をすることができる身分証明書として、マイナンバーカードが交付されます。

しかし、マイナンバーカードの交付率は、全国で約14%、和歌山県では11%と

なっていますが、令和3年3月からマイナンバーカードを健康保険証として使えるようになり、お薬手帳機能が導入され、確定申告での医療費控除も簡単に手続きができるようになります。令和5年3月末までにほぼ全ての医療機関で利用できるようになるということは、その時点でほとんどの住民がマイナンバーカードを持つということになります。

また、消費税率引き上げに伴い、増税分のマイナス影響を補填できるようなマイナンバーカードとスマホ決済などを連動させてポイントを付与する新しい制度が、令和2年7月以降に開始される予定です。それはキャッシュレス決済のポイント還元制度が終わる来年6月末以降も、新たな消費活性化策として、キャッシュレス決済等の入金額に応じて、マイナンバーカードを持っている人がチャージすると、国がポイントを上乘せするというものです。これはマイナンバーカードの普及と消費喚起を促すというものであります。この新たなポイントにつきましては、まだまだ確定していない部分もありますが、いずれにしましても、マイナンバーカードを持っていることによって、何らかのメリットがあるということです。つまり市民の皆様は1人でも多くマイナンバーカードを持っていただくことで、1人でも多く新たなポイントのメリットが受けられるわけです。

そこで、本市におけるマイナンバーカードの普及率、そしてまた、普及に向けた推進方法についてお聞きします。

次に、マイナポイントについてですが、先ほど少しお話させていただきましたが、マイナンバーカードを取得して、民間のQRコード決済やスマホ決済などのキャッシュレス決済に現金をチャージすれば、全国で使えるポイントが付与されるという制度で、来年の7月以降に始められるとされています。このポイントの還元率は、例えば、2万円入金すると5,000円分のポイントが還元されるという、25%案が検討されています。このように、マイナポイントが導入されるとなれば、より多くの市民にマイナポイントを活用していただけるようにPRしてはいかがでしょうか。

○田畑議長 ただいまの2番目の質問に対する市当局の答弁を求めます。

総務部長。

○大平総務部長 田中議員ご質問の2番目、マイナンバーカードについての1点目、マイナンバーカードの交付率推進についてにお答えいたします。

令和元年11月末現在の住基人口に対する市の交付率は11.4%であり、県全体は11.6%、全国平均は14.5%となっております。マイナンバーカードの普及に向けた推進といたしまして、広報、ウェブサイト等での啓発を実施するとともに、商業

施設及び岩出市文化祭においてマイナンバーカードの出張申請所を開設し、市民の方に対し、カードの申請書作成の手伝い、無料での写真撮影、申請書受け付け、受け付けした申請書の発送代行等の補助を実施いたしました。市役所の市民課の窓口におきましても、電話予約により写真撮影等の申請補助を随時実施しております。

令和3年3月からマイナンバーカードが健康保険証として利用予定であることもあり、カードを申請する方がふえると予想されます。早目に申請していただけるよう、令和2年2月の確定申告期間中においても申請補助の実施を予定しており、市民の方に対し、多様な申請機会を設け、カードの交付普及促進に取り組んでまいります。

次に、2点目のマイナポイントについてお答えいたします。

マイナポイントは、令和2年度に消費活性化策として実施されることになっておりますが、マイナポイント事業の詳細について、政府がまだ決定をしていないため、現段階で、本市としましては、健康保険証として使えるようになることをPRし、マイナンバーカードの普及に努めているところです。

今後、詳細がわかり次第、マイナポイント制度についても市民の皆様方へ広報紙や市ウェブサイトを通じて広く周知してまいります。

○田畑議長 再質問を許します。

田中議員。

○田中議員 このマイナンバーカードは、行政の手続を簡単にする住民の利便性の向上や、手続が正確にできる行政の効率化を図れるものです。来年7月以降のマイナポイントの使い方や、案ですが、まだ決定はされていませんが、それと令和3年3月から健康保険証として使えるなどのメリットがあれば、マイナンバーカードの普及にもつながり、所持する方が多くなると思います。

ただ、マイナンバーカードは個人情報がかかるものであり、カードを紛失また盗難に遭った場合、そのセキュリティーについて心配なことも考えられます。どのようなセキュリティーがなされているのか確認しておくことで、安心してマイナンバーカードを利用することができると思いますが、いかがでしょうか。

○田畑議長 ただいまの再質問に対する市当局の答弁を求めます。

総務部長。

○大平総務部長 田中議員の再質問にお答えいたします。

マイナンバーカードは、どのようなセキュリティーがなされているのかについてですが、マイナンバーカードを紛失あるいは盗難時におきましては、24時

間 365 日のコールセンターが設置されておりますので、コールセンターに電話で連絡をすれば、カードの一時停止措置がとられ、カードの第三者による利用を防止いたします。

また、マイナンバーカード自体には、税や年金関係情報など、プライバシー性の高い個人情報は記録されておられません。情報の確認には暗証番号が必要となっており、一定回数以上、間違えると使えなくなります。また、偽造防止のため、顔写真の張りかえ防止対策など、さまざまな対策が施されており、安心してマイナンバーカードを利用していただけようになっています。

○田畑議長 再々質問を許します。

(なし)

○田畑議長 これで、田中宏幸議員の 2 番目の質問を終わります。

以上で、田中宏幸議員の一般質問を終わります。